

MERRY IN SAPPORO

メリー イン サッポロ

新しい時代をハッピーにするのは、人々の笑顔。「Merry Project」はコミュニケーションアートを通して、世界に「Merry(しあわせ)」の輪を広げていくためのプロジェクトです。アートディレクター水谷孝次撮影による笑顔のポスター展示を始め、映像のインスタレーション、ビジュアルブックの出版、フリーペーパーの配布などの活動を、ロンドン、震災後の神戸、テロ1年後のN.Y.など世界各地で展開してきました。2003年夏に東京で開催された「Merry in Tokyo」では、東京の街全体をMerryな空気であふれさせただけでなく、自分達の足元を見直そうと、希望者によるゴミ拾いプロジェクトもスタート。その後も渋谷で1,000人規模でのゴミ拾いプロジェクトの行方など、活動の枠を広げてきました。そして今年、札幌の中心部「四番街」を中心に新たなMerry Projectが動き出します。



2003年12月札幌で行った撮影の様様。



2003年Merry in TOKYOの様様。
2003 Roppongi Hills, Shiodome Dentsu Bldg, Hibiya, Marunouchi



2002年Merry in KOBEの様様。



INTERVIEW with 水谷孝次

■Merry Project

グラフィックデザイナーの水谷孝次が主宰する「人にメリー(幸せ)の輪を広げよう」というプロジェクト。阪神大震災の被災地や、米中同時テロの傷跡が残るニューヨークなどの街中で、人々の笑顔の写真を展示するなどの活動を行っている。ゴミ拾いは昨年夏から、ボランティアの若者を中心に六本木や渋谷などで行われている。
Merry Project <http://www.21merry.net>

■Merry in Sapporo Project事務局

〒060-0083 札幌市中央区南三条西3丁目10番地三信ビル9F (札幌四番街徳田街振興組合内)
TEL 011-231-5475

■Merry in Sapporo Project推進チーム

〒060-0001 札幌市中央区北一条西2丁目1番地 札幌時計台ビル10F
(株)東急エージェンシー北海道支社内 TEL 011-231-5841(代)



一この活動を始めようと思ったきっかけは?

僕は長いことグラフィックデザイナーやアートディレクションをやってきて、個人的にも写真を撮っていたんです。1999年の秋位に、子供達の笑顔の写真集を出すことになって、それでタイトルは何にしようかと思った時に、楽しいとか幸せとか陽気というような意味で「メリー」とつけました。それから、原宿のラフォーレにミュージアムがあるので、そこで展覧会をやらないかと、ラフォーレの人に聞いていたんで、新しい21世紀は笑顔のコミュニケーションなんだというのをここで立ち上げたんです。その場で撮影した笑顔とどんどんポスターに貼って、パッと美術館中に貼っていったんです。今では、あなたにとってメリーとは何ですか?と聞かれるインタラクティブで参加型のアートイベントとして展開しています。

一誰でも参加できて、しかも一方的でなくお互いの意志の疎通がある。

その後、東京とインターネットで繋げてロンドンでも展覧会をやらせていただいたんですけど、そのうちに神戸でやることになった。負の遺産がある街でメリーをやることによって、街が輝きを取り戻すことができるなら、それは素晴らしいと思ったんです。何が負の遺産がある場所の笑顔のほうが、強く美しいと思ったんです。そして、元気がなくなった街が明るくなったとか、そういう反響が多くなったことが嬉しかったんです。同時期に、テロ1年後のニューヨークでもやって、去年の今頃って、もう時期イラク戦争が始まるという緊迫感があったし、ニューヨークもビビリビビりしていたんですよ。その時に光ファイバーが含まれているパソコンで、ニューヨークと東京を同時に結んでコミュニケーションをさせたんです。笑顔のコミュニケーションというのを、企業が持つ最新の技術を使ってやろうと、やっぱりその時々に合わせて、場所や相手によって、どんどんシステムを変えていく。そこはアイデアだし、面白いです。どんどん進化していくアートだと思います。

一まるで生き物みたいですね。苦勞している事はありますか?

基本的に予算がない。東京でも膨大なお金がかかっているんですけど、協賛企業から募ったり。僕は街と人がいかに一緒にアートに関わっていくのかと考えています。そこに企業とか社会のシステムを、どういう風に絡めて展開していくか。これからの課題ではないかと一番思います。それがゴミを拾って満足するとかいう単なるボランティアではない、新しい社会光景をテーマにしたアートビジネスにつながってほしいなと考えていて、いろいろ大変ですが頑張っています。

一参加されている人を見ていてもすごくパワーが感じられますよね。

この間1千人にやってもらったんですけど、やはり若い人達がメリーに参加して欲しいですね。やはり若い人達、未来を作っていく人達がゴミ拾いをやる、そういうことが大切だと思うんです。東京で美容師さんが休みの火曜日に集まってやるって言ったら、みんな来てくれたんです。なかなか休みの日になんか行かないですよ。でも来てくれるんです。ゴミ拾いを格好いいとか、やってみたくて、若い人達が時代としてかなり意識が変わってきたように思います。

一それとでも上手く若者に訴求されていると思います。なかなか行動に移せない部分を上手く導いてくれているような。

ボランティアとかゴミ拾いをやりたいんだけど、なかなかやる機会がないとか、そういう人達は多いですね。

一最初に始めたアートという枠を超えて、今もなお進化されています。

今回の札幌は「5万人の笑顔が北の大地を笑顔にする」これがテーマなんです。いろんな場所までやってきましたけど、拓殖の破産、十勝沖地震など相次ぐアクシデント。これは負の遺産です。大きな打撃からなかなか抜け出せない北海道を、以前のような元気を復元したいと札幌からの声があったので、何か意味があるのではないかとこの種の感動もあるんですけど。

一札幌の印象を聞かせてください。

まず、札幌でやるということ自体が面白いじゃないかな。白いということ、ピュアであるということ、いい意味で上のついたジャガイモみたいなところがあって(笑)、それもかわいくなっている印象ですね。北海道は、フロントアスピリットとか先頭をきいていく開拓者のメンタリティ、血やDNAが何かそういうものを持っているんじゃないかな。今日もみんなと話をしながら笑顔の写真を撮ったんだけど、それぞれ就職しなければいけないとかこれから東京へ行くとか、みんなそれぞれに人生があるけれど、笑顔は共通だから。住所持てる写真を見た連行人が、自分も笑って元気がなくなっちゃって思えるような作品にしたいですね。

一今後の展開を教えてください。

笑顔のコミュニケーション、その中のひとつとしてゴミ拾いプロジェクトをやります。

笑顔の展覧会から始まり、コミュニケーションアートとして展開していて、最近では街を元気にするために、自分達の足元にある環境を見直す必要があると感じて、一般参加者によって行くゴミ拾いをやることになったんです。それはゴミを拾って、ただ満足するのではなく、ゴミを捨てない街を作ろうと。参加している人々と人がコミュニケーションし合ったりとか、それを見た街の人達が自分達もゴミを捨てたらいけないとか、みんな頑張って何か何を感じてもらって、そういうコミュニケーションが広がっていくということが大切じゃないかなと思います。5月には、1千人を集めて大人数のゴミ拾い、見せるゴミ拾いをやろうと計画しています。

一すごい規模ですね。

1千人って思ったらすごいですよ。1千人は無理でも、限りなく近づけよう。費用の問題とかもいろいろあるんですけど、でも札幌って何かあんな感じがする。ゴミ拾いを札幌では1千人でやってきて、今度北海道全道で5万人でやるうとしているんですよ。まっさかのように「5万人の笑顔が北の大地をメリーにする」というのがコンセプトなので、去年になったら10万人、その次には100万人になっているのかわからないんですけどどんどん増えていて、いつかそれが日本中、世界中に笑顔のムーブメントとしてプロジェクトが広がって、そこでもゴミ拾いが行われたら、地球がキレイに元気になるし、きっと戦争も起こらないだろうと思う。今まで東京でやってきた事の裏返りをぜひ札幌でやりたいですね。

一買った後の展開でも考えられているんですね。

単なるアートイベントとか展覧会とかの感じがしないですね。今回は最初なので、どこまでどのくらいになるかわからないけど、このプロジェクトは普遍的なもので、笑顔のコミュニケーションとか地球をキレイにしようとか、そういう事ってとても大事なことでしょ。それが来年も再来年もつながってほしいなと思います。

一読者にメッセージをお願いします。

メリーを気軽に体験してほしい。写真を撮られることもひとつなんだけど、ゴミ拾いにもぜひ参加してもらいたい。参加してもらって楽しいって感じてもらえれば嬉しいです。その人達が家や学校、職場に行って家族や友人に伝えることで、またさらにメリーの輪が広がっていくといいですね。



東京の街をMerryにするためにはまず自分達の足元の環境を見直す必要を感じ、ボランティアでゴミ拾いプロジェクトもスタートさせました。2003年12月2日(火)渋谷にて開催された「Merry & Re-QUEST OJ ゴミ拾いプロジェクト」。



「あなたにとってMerryとは?」という質問を街角の人々に投げかけ、その笑顔とメッセージを集める。9/11をはさんで9日間、撮影を敢行。N.Y.の街を歩く女の子たちの今の笑顔を集めてきました。

Merry
撮影・水谷孝次
テキスト・ポール・スミス/小宮真尋/坂本龍一/金子美穂
プロデュース・中田浪樹
編集・吉田広二 デザイン・遠藤一成(水谷事務所)
2000年12月9日発売 定価3,200円(税別)
A5変形 カラー500ページ
発売元・bauhaus

Merry in KOBE
撮影・水谷孝次
テキスト・笠原智也/平野勲/今泉秋也
編集・山本梓
デザイン・水谷事務所
定価1,200円(税別) A5変形
発売元・神戸新聞総合出版センター

2003 Roppongi Hills InformationCenter / THINK ZONE